

日本仏教看護・ビハーラ学会第21回年次大会

2025 6.28 (土) — 6.29 日 (日)

山谷巡り — 6/28 10:00 START

受付 — 6/28・29 12:00 START

山谷・浅草

泪と汗、人生をまるごと抱くまじかり



慈愛の花を咲かせましょう  
— 寄り添なき者、共に生きる —

1日目

6/28

土曜日

南千住 回向院

基調講演 「そこが陽のさす場所」  
今井 洋介 長岡西病院ビハーラ病棟長

落語 「<sup>はんごんこう</sup>反魂香」 柳家三稀 落語家

シンポジウム ①

「最期まで支えるケアのありかた  
宗教の垣根を超えた協働実践」  
司会 高瀬 顕功 ひとさじの会

的場 由木 NPO法人ふるさとの会

平野 智子 NPO法人 訪問看護ステーションシユスモス

油井 和徳 認定NPO法人 山友会

A さん 路上生活経験者

2日目

6/29

日曜日

浅草寺

シンポジウム ②

「生活 困窮者の看護 ケアに仏教が果たした役割  
浅草寺病院の歩みから」  
司会 吉水 岳彦 ひとさじの会

久松 佐恵子 浅草寺病院ソーシャルワーカー

鈴木 裕介 明星大学

マディーン 啓子 元浅草寺病院医

光照院「あさくま山谷光潤観世音菩薩」



日本仏教看護・ビハーラ学会



## 「慈愛の花を咲かせましょう—寄り添なき人、共に生きる」

## Message

今年、第二次世界大戦から80年の節目の年を迎えますが、いまもなお平和とは程遠い世界の現実が目の前にあり、深い悲しみを覚えずにはられません。いかにすれば真に平和な世界が実現されるのでしょうか。

今大会の開催地であり、日本の戦後復興を支えた日雇い労働者の街、浅草山谷地域のケアのあり方のなかに、その手がかりを学ぶことができます。

それは、いかなる過去を持つ人も、どれほど困難な状態の人も、どんな思想や文化、信仰をもつ人も、等しく受け入れられ、共に生きられる場の構築です。あらゆる争いは、思想や文化、宗教、生き方の異なる者など、違和感を覚える他者に傷つけられまいと、身を守ろうとして起こります。だからこそ、多様な他者であるお互いをありのままに敬い尊重し合い受け入れていく真の包摂的社会を求める姿勢が、平和な社会の実現に求められます。これは言葉にするのは簡単ですが、実際に行うことは極めて困難なことです。それでも、その実践に取り組まざるを得なかったのが、浅草山谷地域に暮らす多様な人たちのケアに取り組んだ人々なのです。

この地域は、江戸期には小塚原処刑場や遊郭として知られる吉原、被差別民を取りまとめていた弾左衛門の居住地等があり、歴史的にも差別や貧困などで苦しく、生き難い人たちが集る場所でした。

今大会では、浅草山谷地域の歴史やケアの実践の特殊性を学ぶことを通じて、大会来場者すべてがここに慈愛の花の種を得てお帰りいただきたいと考えています。

医療や福祉、宗教の専門職の方のみならず、浅草山谷地域のケアにご関心を持つすべての方にお越しいただきたいと願っております。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

合掌 大会長 吉水岳彦

## Information

1日目  
6/28  
土曜日

## 南千住 回向院

山谷通り—10:00  
受付—12:00

## 基調講演「そこが陽のさす場所」

今井 洋介 長岡西病院ビハーラ病棟長

はんごんこう  
落語「反魂香」 柳家三語楼師匠

## シンポジウム①

「最期まで支えるケアのありかた  
宗教の垣根を超えた協働実践」  
司会 高瀬 顕功 ひとさじの会

的場 由木 NPO法人 ふるさとの会

平野 智子 NPO法人 訪問看護ステーションコスモス

油井 和徳 認定NPO法人 山友会

Aさん 路上生活経験者

会場アクセス



大会初日には、この地域の歴史的な特性を来場者と共有すべく、処刑される人たちのために一心に念仏した土手の道哲と古原の人気花魁であった二代目高尾太夫の登場する落語を鑑賞します。

この日のシンポジウムでは、現代の浅草山谷地域のケアの実態を、ケア実践者や当事者をお招きしてみなさんと学びます。浅草山谷地域に暮らす人の中には、もともと家族との関係が希薄で、病氣やケガ、加齢等によって働けなくなった人も多く、単身独居の高齢者も少なくありません。そのため、この地域では20年以上前から訪問型のケアが発達し、単身独居の高齢者たちを支える仕組みが自然と発達してゆきました。

この地のケア従事者は、そうした人々に向き合うべく、自分たちもあらゆる職種や法人、宗教等の違い等の垣根を超えて連携協働しています。苦しむ者を前に、宗教の隔たりなど関係ありません。

そして、ケアを求める人が、どんな生き方をしてこようと関係なく、精一杯生きてきたその人を尊重し、共に最期まで支え合いながら生きようと働いています。少子高齢化で単身独居の高齢者が増え続けている現代日本において、大いに参考となるに違いありません。

2日目  
6/29  
日曜日

## 浅草寺

受付—12:00

## シンポジウム②

「生活困窮者の看護ケアに仏教が果たした役割 浅草寺病院の歩みから」  
司会 吉水 岳彦 ひとさじの会

久松 佐恵子 浅草寺病院ソーシャルワーカー

鈴木 裕介 明星大学

マディーン 啓子 元浅草寺病院医

会場アクセス



大会2日目のシンポジウムでは、戦前から現代に至るまで、仏教の大慈悲の精神と社会福祉法人立の病院の理念のもとに行われてきた仏教的な医療や看護ケアのあり方について学びます。

ホームレス状態の人にも、触法者にも、苦しむ者があれば、信仰の違いにも関係なく、等しく尊敬を大切に接し、時には無償で診療する仕組みまで構築した浅草寺病院の慈愛に満ちた仏教的看護ケアのあり方には、現代も学ぶことが多いでしょう。

宗教の地平ともいえる無差別平等の慈愛の花を、医師も看護師もソーシャルワーカーも宗教者も患者も利用も、みな自分のところに咲かせてこそ、あらゆる“いのち”がやわらかな心で生き、安心して死を迎えられる、真に平和な世界の実現に向かうでしょう。

## お申込について

会場の席数に限りがありますので、当日席がない場合は当日申込（支払い含む）の入場をお断りする場合がございます。

なお申込者多数の場合先着順にて締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください(定員120名)。

申込フォームはこちらから

